

小牧南遺跡 第2次 (No, 4)

位置情報URL：[小牧南遺跡位置情報](#)

○竪穴住居の調査が進んでいます！

小牧南遺跡では3つの時代の竪穴住居がみられます。

古い順に

縄文時代中期 (4,500年前) 3~5棟ほど

古墳時代前期 (1,700年前) 20~30棟ほど

飛鳥時代 (1,400年前) 10~20棟ほど

※現在調査中のため、正確な棟数は今後明らかになります。また数多くの掘立柱建物も存在しているものと推測しています。



① きれいな虹が掛かりました

・現在、古墳時代前期の竪穴住居の調査が一部完了しており、今回はその中でも代表的なものをピックアップしました。

まずSH201は一辺が8.5mにもなる竪穴住居です。斜線より右側半分は新しい時代の溝によって、深くななめに削り取られてしまっていました。

そうした状況の中でも、住居の中からは建物の屋根を支えていた柱の跡 (一般的には4本の柱で構成される) や、炉の跡と考えられる焼土 (赤く焼けた土)、土壁を木板材などで覆った痕跡である周壁溝を確認することができました。

柱の跡は写真左側の2本のみの確認でしたが、削平された部分を推測し、4人が立っています。



② SH201 主柱の位置

③の写真の中には掘削前の4棟の竪穴住居が認められます。それぞれの住居の中には大の字になって人が寝そべておられますので、大体の大きさをおわかりいただけるかと思います。

ここで注目していただきたい点は、複数の竪穴住居が近接してつくられており、いずれもが重複していないということです。通常、複数の竪穴住居が近接する場合、それぞれの住居に時期差があり、古い住居の範囲内に新しい住居がつくられることがよくあります (写真④・⑤)。このような重なりを切り合い (古い遺構を新しい遺構が切っ



③ 竪穴住居群

ているようにみえるため) と呼びます。近接して竪穴住居のような大きな遺構が複数存在している場合は、大抵の場合、切り合っています。今回のように、これだけ近接しながらも切り合っていない住居群は大変めずらしいと言えます。



④ 北山城跡の竪穴住居群 1



⑤ 北山城跡の竪穴住居群 2



⑥ SH245 遺物出土状況



⑦ SH245 出土高坏

こうした古墳時代前期の竪穴住居からは、古式土師器と呼ばれる、弥生土器と土師器の境界にあたる土器が出土します。この古式土師器が使用された時代は、弥生時代か古墳時代か、どちらに位置づけられるのかが、人によって意見がわかれています。弥生時代終末期という人もいれば、古墳時代早期（前期初頭）という人もいるといった具合です。なぜ人によって、時代の認識に差が生ずるのかというと、土器の形や調整技法の変化、古墳の出現をどの段階からとするのかなど、様々な見方から時代の節目を求めようとするからです。どちらの考え方が正解でどちらが間違っているといったものではなく、現在ではどちらの可能性もあり、今後の古式土師器や弥生墳丘墓と古墳の研究によって決着するかもしれません。今後の研究に期待したいものです。

【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

電話番号:059-363-3195/ファックス:059-363-3196

E-mail: maibun@pref.mie.jp